

令和3年度第1回環境担当者研修会開催

開催日時 : 令和3年7月27日(火) 13:30~15:00

開催場所 : 草津市市民交流センター(キラリエ草津)

参加者数 : 44名(会員34名、一般7名、行政3名)



滋賀県が琵琶湖の環境を守るため、2000年3月に策定したマザーレイク21計画が2021年3月で終了し、新たにみんなでつくり、みんなで取り組める“びわ湖版SDGs”として、「マザーレイクゴールズ(Mother Lake Goals: MLGs)」が策定されました。マザーレイクゴールズ(MLGs)は、2030年までに達成すべき「びわ湖保全のための共通目標」です。今回基本理念や推進体制、個々の目標(ゴール)・ターゲット・指標などについて紹介いただき、会員様へMLGsへのご賛同を頂けるよう企画しました。



横江会長 開会のご挨拶



新型コロナウイルスの関係で色々制約があります中、またお忙しい中、研修会へご参加頂きまして誠にありがとうございます。また日頃から協会の趣旨をご理解頂き、ご支援ご協力を頂いておりますことを、重ねて御礼申し上げます。

本日は第1回目の環境担当者研修会ということで、滋賀県琵琶湖環境部 琵琶湖保全再生課 一伊達主幹から「琵琶湖の課題とマザーレイクゴールズ(MLGs)の取組」についてご講演を頂きます。お忙しい中本当にありがとうございます。今日はどうぞよろしくお願い致します。

私事で恐縮ですが、私の家は琵琶湖湖岸にあり、幼い頃から琵琶湖の恩恵を受けて育ってきました。小学校の帰り道、琵琶湖から田んぼの方へあがってくる魚をよく捕まえたものです。私が二十歳の頃はまだ魚はたくさんおりました。ちょうど梅雨の時期、雨が降った後は田んぼから水路の方に流れていく水の所に網を受けているだけで、面白いほど魚が獲れました。今はそんな話をしてもどなたにも信じていただけないと思います。たくさん獲れた魚は塩漬けにして鮎ずしの材料にしました。漁師さんだけではなく、琵琶湖周辺に住んでいた住民皆が琵琶湖の恩恵を受けて生活していたわけでございます。

昔に比べますと、湖岸も整備され、琵琶湖は確かにきれいになりました。しかし魚は昔よりも獲れません。ですから、なんとしても昔のように、ゴリやモロコがたくさん獲れるような琵琶湖に戻したい、そう願っております。しかし琵琶湖をすぐに変えることはできません。できないことをできるようにするには、皆がつながり、一人ではできなければ二人、二人ではできなければ四人、四人ではできなければ八人と、皆さんにお声がけてたくさんの方のご協力を得て、小さなことをこつこつ積み上げ、時間をかけて大きな力に変え、その大きな力をもって、もとのようにきれいな琵琶湖にしたいと思います。

今日は一伊達主幹のお話をお聞きして、今自分は、企業は、琵琶湖に対して何ができるのかご一考頂き、なおかつ実践頂けるような取組をお願いしたいと思います。今日はどうぞよろしくお願い致します。

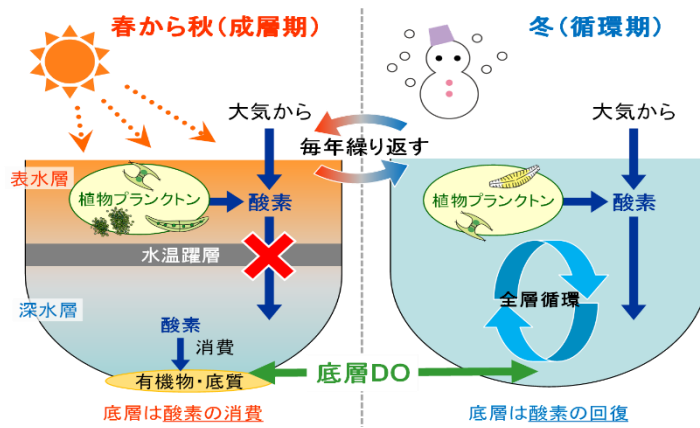
講師：滋賀県琵琶湖環境部
琵琶湖保全再生課
水政策係 主幹 一伊達 哲 氏



かつての琵琶湖の問題は、淡水赤潮の大発生（1972年）に端を発する富栄養化であった。せつけん運動を始めとする市民や事業者、行政による水質保全対策が実施され、その結果琵琶湖はキレイになってきたと言われるが2010年代には大型緑藻類の増加が頻発し、また琵琶湖の漁獲量も減少してきた。原因は河川開発、瀬切れ、内湖干拓、護岸工事など様々挙げられている。また最近は古くて新しい琵琶湖のゴミ問題（プラスチック、マイクロプラスチック等）があり、森林においては緑豊かになったが、シカやイノシシ等の食害も増加している。

琵琶湖の水質はこれまでの水質改善対策により、全般的に改善傾向にあるが、水質改善には、「琵琶湖の深呼吸」全層循環が不可欠だが、2019年、2020年には全層循環の未完了が観察され、気温の状況が関係していると考えられている。

琵琶湖の全層循環（通称「深呼吸」）



◆琵琶湖の全層循環の仕組みは、冬（循環期）に表層の酸素が深層に循環して、深層で酸素が回復すること。

◆全層循環が完了したかどうかは、湖低層の溶存酸素濃度（DO）の変動を観測して判断していく。

マザーレイクゴールズ（MLG s）は、いま琵琶湖で起きている問題に対処するため、2030年までに達成するべき「びわ湖保全のための共通目標」13のゴールの設定です。



1. 清らかさを感じる水に
2. 豊かな魚介類を取り戻そう
3. 多様な生き物を守ろう
4. 水辺も湖底も美しく
5. 恵み豊かな水源の森を守ろう
6. 森川里湖海のつながりを健全に
7. 琵琶湖のためにも温室効果ガスの排出を減らそう
8. 気候変動や自然災害に強い暮らしに
9. 生業・産業に地域の資源を活かそう
10. 地元も流域も学びの場に
11. びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう
12. 水とつながる祈りと暮らしを次世代に
13. つながりあって目標を達成しよう



滋賀県南部環境事務所の川崎でございます。皆さん今日は長時間にわたりご苦勞様でございます。一伊達主幹、ありがとうございました。

本日はマザーレイクゴールズの中身についてご説明頂いたわけですが、私の方からも少しだけ補足をさせていただきます。配布資料「マザーレイクゴールズ (MLGs) アジェンダ」の 67 ページをご覧頂けるとありがたいのですが、マザーレイクゴールズの前身に「琵琶湖総合保全整備計画 (マザーレイク 21 計画)」というものがございます。これは 10 年前の 2011 年に作られた計画でございます。この 10 年間、琵琶湖に関心をもつ方々が集まって話し合うフォーラムを年に 2 回開催し、なんとか琵琶湖の保全・再生を進めていこう、と取り組んできたわけでございます。

67 ページ下部に、『「びわ湖との約束」を毎年バージョンアップしてきました。このマザーレイクフォーラム 10 年の蓄積による「びわ湖との約束」が、MLGs の元となっております』とあります。

第 7 回	平成 29 年 8 月 26 日	「びわ湖を活かし びわ湖と生きる」	211
第 8 回	平成 30 年 8 月 26 日	「『〇〇』からみたびわ湖」	179
第 9 回	令和元年 8 月 31 日	「びわ湖のこれまで、そしてこれから」	192
第 10 回	令和 2 年 11 月 2 日～ ※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを主体に開催しました。		234

びわコミ会議では、琵琶湖の現状を様々な指標で把握、共有するとともに、テーマに分かれて課題や活動について話し合いました。会議の最後には全員が「コミットメント(約束)」を掲げるようになっており、テーマ別に話し合った結果と合わせて、琵琶湖のために自分たちができること＝「びわ湖との約束」を毎年バージョンアップしてきました。この、マザーレイクフォーラム 10 年の蓄積による「びわ湖との約束」が、MLGs の元となっています。

ページを 2 ページめくっていただきますと、70 ページ上部に写真が載っています。

ワークショップの最後には参加者全員で「びわ湖との約束」を掲げました。



フォーラムの度に皆さんに「私は琵琶湖のためにこんなことをします」という約束をボードに書いて掲げていただく、ということをして10年間行ってまいりました。その一言一言を集めて整理し、出来上がったのがMLGsです。一言一言の裏にはこうやってボードを挙げて頂いた方々がいるということでございます。そういう風に思っていると、この言葉の集まりにちょっと親近感がわくというか、見方が変わってくるのではないかなと思います。

MLGsは、これまであったマザーレイク21計画とは似て非なるものでございます。ただまだ出来上がったばかりでございますので、どうぞ皆様の職場等で、うまくこれを活用していただくことによって、琵琶湖の保全再生につながる取組が進みますことを期待しておりますので、どうぞ皆様ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

以上